

## 5 仮説設定の理由

### ○仮説1について

- ①五感に訴える体験的な活動は、子どもの学習への関心・意欲を高めると同時に、「自分と世界のつながり」（自分が今、住んでいる国・地域と世界とのつながり）をより現実味のあるものにしてくれる。そして、それは、子どもの「他者とながりたい、かかわりたい」という意欲も喚起する。
- ②問題解決的な学習を通して、多様な文化や考えを受容・尊重し、多文化共生への意識をもち、世界が抱える課題を解決しようとするようになると思う。

### ○仮説2について

- ①世界に触れ・考え、世界とつながった子どもたちは、その気づきや想いをプレゼンテーションで伝えたり、対話・交流すること等によって、新たな価値を創造すると思う。
- ②新たな価値はまた新たな価値を生み、そのことが広い視野を持つ事につながり、変化の大きい国際社会を生き抜く力をつけることができると思う。

## 6 教材づくりの視点

### ○視点1：子どもと世界をつなぐ教材づくり

国際理解教育には系統的な指導内容があらかじめ準備されているわけではない。それぞれの学校で、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間、さらに小学校においては外国語活動との関連を図りながら、教育課程に国際理解教育の内容を組み込んで行くことが重要である。特に、子どもに異文化を理解させながら、世界の現実に触れる場の蓄積を図っていくことが必要である。実際の授業では、子どもが繰り返し自分と世界のつながりを意識する学習の場面をきるだけ多く設定する。

【主にBASIC1（地理的項目・2（文化・言語的項目）の領域】

